

カトウツケオグモ *Phrynarachne katoi* Tikuni

【選定理由】

観察例や採集記録は散発的である。全国的にも採集記録は少ない。

【形態】

体長雌 7~9mm、雄 2~3mm。一見鳥の糞に似る。腹部には大小の突起が多数あり、それぞれの頂点には 1 本の毛を生じる。第 1・2 歩脚の転節、腿節、膝節の半分ほどまでは白色、その先から蹠節、ふ節は黒色で非常に目立つ。



瀬戸市海上町(海上の森), 2008 年 6 月 12 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

犬山市八曾、瀬戸市海上町、豊田市猿投町・勘八町・琴平町・広幡町・京ヶ峰、新城市日吉、北設楽郡東栄町で確認された。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する (新海ほか, 2018)。

【生息地の環境／生態的特性】

里山や山地の木本や草本の葉上に静止し、獲物を待ち伏せる。昆虫類が近づくと、第 1 脚を小刻みに動かして捕らえる。本種が飛んできたハエを捕えて食べていると、別のハエが後ろから近づき、腹部の突起を舐めているような行動をしていた (杉山・大原, 2003)。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数は極めて少ないものと思われる。生息状況は不明の点が多い。

【保全上の留意点】

確認された生息地での環境保全。殺虫剤や除草剤の使用も慎むべきである。

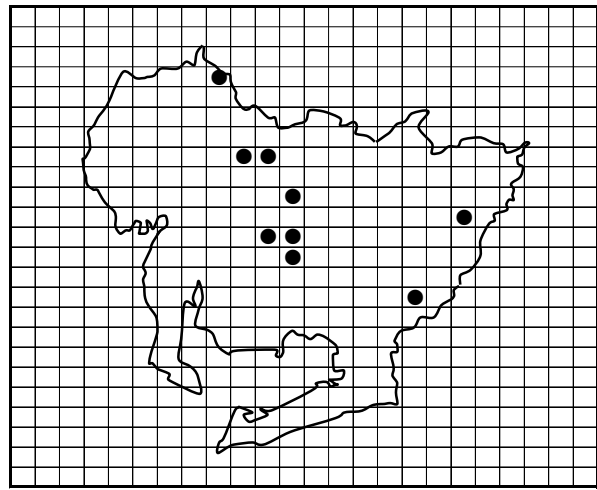
【引用文献】

杉山時雄・大原満枝, 2003. カトウツケオグモの捕食行動の観察. 蜘蛛, 36: 7-9. 中部蜘蛛懇談会.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.140,267. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.210. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.250. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.504,634. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.359,565. 東海大学出版会部, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)